



右上は、明治9年（1876）にアメリカ合衆国フィラデルフィアで開催された万国博覧会の記念写真です。後列一番左が生糸関係の審査官として渡米した前橋在住の速水 堅 曹（はやくみ けんそう）です。

右下は、明治10年（1877）頃に撮影されたもので、前橋への県庁移庁に尽力した前橋の生糸商人たちが写っています。前列左が初代前橋市長となった下村善太郎（しもむら ぜんたろう）です。

左上は、前橋生糸改所の写真です。明治初期、生糸は日本の重要な輸出品でした。不良品の生糸が輸出されると、日本の生糸が外国で売れなくなってしまうため、よい品質の生糸を生産することが奨励されました。生糸改所は、生糸の品質を検査するために、現在の前橋市、高崎市、伊勢崎市、渋川市、藤岡市、富岡市、安中市、下仁田町、大間々町に設置されました。群馬県の生糸生産は、明治を通じて全国1、2位の生産高を占めていました。



〈参考資料〉『群馬県史』通史編8 192～249頁 『群馬県蚕糸業史』下巻